

小さいこどもの話を、年令別に分けて作られているのをあまり見たことがないので、単行本をよみきかせた時、非常によろこんだものを、「つづき話」として二、三回に分けてきかせることもありま

す。中でもよろこばれているものの二、三を御紹介しましょう。

A、岩波のこどもの本（単行本24冊の中から）

1. ちびくろさんぼ

くろんぼのこどもの生活を中心にしたもので、映画にもなったり、またいろいろな場面が動物を相手にしているところが多く、非常に興味をもつてきます。

2. まいごのふたご

カンガルーのふたご、ぞうのふたごが森でまいごになって……………。

3. ひとまねこぎる

ひとまねじょうずなこぎるが、いろいろ

ろと失敗をするために……………。

4. こねこのピッチ

こねこのピッチがいろいろと夢を描き、他の動物になりたがるけれど、やっぱり、こねこが一番いいと気がついて……………。

5. 金のにわとり

おはなしの本

山村 ぎよ

なまけものの王様と魔法使いのもつてきた金のにわとりを中心にしたロシアに古くから伝わるお話。

6. ねずみと王様

かしこいねずみがこどもの王様に大切なことを教える……………スペインの昔話。

7. 小さい小さいおうち

静かな田舎にあった「小さい家」のまわりに町ができたためにだんだんにぎやかになってゆくの、小さい家は見えなくなり、淋しくかなしむような、しんみりした話の中に、現代的な町の発展のようすがのぞかれて、年長児には是非きかせたい話（紙芝居に作られている）。

B、ひらがな童話集（徳永寿美子編）

おひげのおねず

から

非常にながいお話であるけれど、場面のくりかえしが多いので、（くま、さる、子リス、りっぱなひげをもったねずみが、四場面に分かれて同じような行動をくりかえすので）、よんでやる話にしても、きかせるお話にしても非常に喜びます。

この他、母の友や、その他の雑誌にながくのせられている一日一話の中から、年令別に考えて材料をみつけ、すきなものは何度かくりかえし聞かせています。